

佐田町・横見埋没林における三瓶火山噴出物について

島根県立三瓶自然館 福岡 孝

1. はじめに

2003年5月、三瓶山の北東約8km、島根県簸川郡佐田町横見地区の農道整備工事現場で埋没樹木が発見され、佐田町教育委員会によって「佐田町・横見埋没林」と命名された。現地は神戸川が蛇行するポケット状に入り込んだ地形であったために、三瓶火山からの噴出物が取り残され、埋積していた樹木が保存されることとなった。これにより、三瓶火山の活動による異なった二つの時代の埋没林が発見されたこととなる。

2. 三瓶火山の活動期と埋没林

三瓶山は島根県中央部に位置する更新世後期から完新世にかけて活動した火山である。三瓶火山の活動史については松井・井上(1971)、服部ほか(1983)、林・三浦(1987)、福岡・松井(2002)などによって報告されている。

福岡・松井(2004)はこれらをまとめて第Ⅰ期から第Ⅷ期までに区分した。ただし、第Ⅷ期については風成堆積物の可能性もあるとした。1997年に発見された三瓶小豆原埋没林は第Ⅷ期(3600年前頃)の堆積物に覆われているのに対し、佐田町・横見埋没林は第Ⅱ期(5万～7万年前頃)の堆積物に埋没している。

三瓶火山は第Ⅳ期を境に流紋岩質のプリニアンタイプからデイサイト質のブルカニアンタイプの噴火様式に変化した。すなわち、横見埋没林は三瓶小豆原埋没林とは噴火様式の異なる堆積物によって埋没されていることと、それを埋積した堆積物から三瓶火山活動のダイナミクスが読みとれるという点で興味深いものである。



写真：西側露頭

- ①河床礫 ②大山松江軽石(DMP)
 - ③柏淵火砕流の再堆積物
 - ③-4 コンポリュートラミナ
 - ④木次降下軽石
 - ④-2 木次降下軽石のブロック
 - ⑤古土壌
 - ⑥雲南降下軽石
 - ⑦大田軽石流堆積物
- 点線部分は火山碎屑脈